



小平市立上宿小学校



東京都型学校運営協議会だより No.4

令和4年 2月 1日

会長 羽根田 厚子

校長 内 藤 章

早いもので、令和3年度も残すところあと2か月となりました。感染症の予防にも取り組みながら、子どもたちは卒業や進級に向けた準備を進めていることと思います。

さて、令和4年1月22日（土）に、第5回小平市立上宿小学校 東京都型学校運営協議会を行いました。その中で話し合われたことについてお知らせいたします。



上宿小CS プロジェクトチーム名の投票結果について

上宿小CSのプロジェクトチーム名について、皆様から合計257票の投票をいただきました。ご協力、ありがとうございました。5つの候補の中から、最も得票数の多かったものに決定することを協議会で承認しました。今後はこの名称を使用していきます。

決定

- A 「広げよう。学びの輪。」プロジェクト
- B 「育てよう。心の芽。」プロジェクト
- C 「みんなで協力。助け合おう。」プロジェクト

プロジェクトA



地域と学校との連携を図りながら、子どもたちの学びの可能性を広げていく

プロジェクトB



地域と学校との連携を図りながら、子どもたちの心と体の健やかな成長を促していく

プロジェクトC



地域と学校との連携を図りながら、子どもたちの安全で安心な生活を支えていく



学校経営について意見を述べました。

今回の協議会では、令和3年度学校関係者評価について、また、令和4年度学校経営方針について各委員が意見を述べました。子どもたちのために、上宿小学校の取組がよりよいものとなるように、また地域としてどんなことができるかという視点をもって、話し合いを行いました。各委員からの意見は、令和4年度の学校経営に生かされていきます。

上宿小 HP



詳細はこちらより

上宿小HP <https://www.kodaira.ed.jp/20kodaira/>

我が家には、社会人の娘が二人おり、上宿小学校には、長女が5年生、次女が2年生になる4月に転校してきました。次女が4年生に進級し新しいクラスになった時のことです。以前から保護者の間で話題に上っていた元気の良い男の子と同じクラスになりました。自分の思い通りにならない時に、騒いだり、教室から飛び出したり、時には友だちと喧嘩になったりする。女の子のお母さんは関わらないようにと言っている人もいます。そんな話を耳にしていました。学年の人数が41人と少なかったので、娘にいろいろ聞いてみましたが、あまり興味もなかったのか「分からない」というばかりでした。周囲の話だけを聞いて我が子に「関わらないでね!」ということとはできない。



6年生：書初め「心に太陽」

でも何かあったら。けがをさせられたら。と思った私は、何が真実かわからない状況では我が子にどう対応してよいかわからないので、どういう状況なのかを伺いたいと担任の先生を通して校長先生にお願いしました。校長先生は、男の子のご両親に話をし、クラス委員が開いてくださった茶話会に保護者と共に参加してくださいました。保護者の方はお子さんの現状を涙ながらに話してくださいました。その時の涙は今でも忘れられません。校長先生からは、今後学校としてどのように対応していくかというお話がありました。男の子のお母さんには本当につらい思いをさせてしまったと今でも申し訳ない思いでいっぱいですが、子どもには、噂に惑わされず真実を話して、何かあったときにどのように対応すればよいのかを話すことができて良かったと思いました。また、校長先生をはじめとして学校全体、そして学年の保護者で共有できたことは良かったと思います。その後この男の子は学年が上がるとともに落ち着いていき、間もなく大学院を卒業し社会人となります。

6年の間にはいろいろなことがあると思います。「子どもの話は半分」とよく言われますが、「大人の話も半分」だと私は思います。SNSが発達した今、様々な尾ひれがついた話が保護者の間で広まっていることも多々あるのではないのでしょうか。学校のことで悩んだり困ったりしたことがあったときは、保護者間で相談することも大切ですが、場合によっては担任の先生や校長先生に真実を確認したり、相談したりすることも必要かと思います。来年度には、コロナウイルス感染症の状況を見ながら、コミュニティ・スクールの一環として校内に「おしゃべりの部屋（仮称）」を開き、日頃の愚痴や悩み、相談などを思い思いに出来る場を開設したいと思っていますので、ぜひお出かけください。

(次回は、上宿小 都型学校運営協議会 副会長 須山さんの予定です)

